

1度に10人測れる検温機器 ダイワ通信、2割安く

エレクトロニクス 石川 北陸

2020/4/7 18:00 [有料会員限定]

セキュリティー事業のダイワ通信

(金沢市) は4月下旬、最大で10人程度の体温を一括して測れる検温システムを発売する。人体から出る赤外線を感知して測定した体表温度をもとに、人工知能 (AI) が体温を推定する。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、空港などの施設で利用者を検温するニーズが増えていることに対応する。





体温がモニターに表示される

発売するシステムはカメラに映る人物の赤外線を感知する。ダイワ通信が独自開発したアルゴリズムに沿ってAIが体温を推定する。カメラから2.5～3.5メートル離れた場所にいる人物の体温を0.3度の誤差で推定できる。瞬時に測定するため、1分あたり100人の検温も可能という。

体温はモニターで確認できる。事前に設定した温度を上回る場合は赤く表示するほか、警報を鳴らして監視担当者に発熱者を通知する。空港など利用者の多い施設への導入を見込む。

自社のソフトと、中国メーカーの機器を組み合わせることで価格を抑えた。システムとの連携を設定したパソコンなどをセットにして税別350万円で販売する。従来品よりも2割ほど安い。岩本秀成社長は「コストを抑えて多数の人物を検温できる機器の需要は大きい。テクノロジーを駆使して社会に貢献したい」と語る。

同社はすでにAIによる顔認証の仕組みを活用し、発熱していたり、マスクを着用していなかったりする社員の出勤などを防ぐ認証システムを販売している。新型コロナの感染拡大に伴って注文が多くあるという。